

ヴォルフスブルグ国際青年会議を通して感じたこと

愛知県立時習館高等学校 2年 大羽 紡

私はこの会議に参加して、さまざまな地域から参加した人と今までの自分の視野がいかに狭かったかを実感しました。さまざまな人、もの、ことに触れ、自分で考えることで、国際社会を生きる上での第一歩を踏み出せたと思っています。

私がこの会議を通して海外の人と交流するときに1番必要だと思ったことは、コミュニケーション能力です。英語を母国語とする参加者が少なかった今回は、いかに自分の意見をきちんと相手に伝えるかが大切でした。その中で、「絶対伝わってほしい!」「自分のことを知ってもらいたい!」と積極的に行動していた参加者は、たくさんの人と仲良くなっていました。自分の英語が通じず聞き返されたときに、何度でも話をできる心の強さも重要だと感じました。私は日本語でも人と話すことが苦手な上に、英語だと周りの英語力も高くて圧倒されてしまいました。

この会議のメインテーマでもあったSDGs、持続可能性については、この会議の主催者、参加者共に環境への関心を強く持っていると感じました。参加者は、環境問題、ジェンダー問題などの持続可能性に対する問題を自分ごととして捉えており、ディスカッションにおいてもたくさんの方が積極的に発言をし、難しい議題でも議論が発展していったため、私は取り残されまいと必死に発言をしました。なんとか伝わった意見がみんなに受け入れられた時はとても嬉しかったです。

さらに、この会議中にいただいた飲み物は全て瓶入りだったのが印象に残っています。会議を通して、改めて世界が直面しているさまざまな危険に向き合えました。

私が驚いたのは、「女性と気候変動」というテーマの会議で聞いた、女性の方が男性に比べて気候変動による被害を受けやすいということです。例えば、世界では女性は家庭を守る役割が強く、気候変動による災害が起きたときに家族を守ろうとして犠牲になったり、そもそも災害に対する十分な教育を受けられていなかったりするため、女性の方が気候変動による被害を受けているとい



ヴォルフスブルグ市長(中央)・参加者と

うことでした。私は初めは性別間で差はないだろうと思っていましたが、このような理由を聞いて自分の視野の狭さに驚きました。

さらに、個人的にいいなと思ったのが、写真中の矢印が示している食品の栄養スコアで、一番良いAから一番悪いEまでの五段階あり、これを一目見ればその食品が健康的であるかそうでないかがわかるようになっています。実際私もスーパーでコーヒーを選ぶとき、栄養スコアを参考にして写真のカフェラテを選びました。

また、今回の会議は青少年のための施設を訪問することが多かったのですが、日本より子供のための施設が充実している印象を受けました。特に、4日めに訪問した児童クラブは、主にアウトドアで活動しており、農作業やDIYなどさまざまな活動をしていました。私は、児童が大人の助けはあったものの自分達で木造の小屋を建てたと聞いて、ドイツでは幼い頃から子供の自主性を尊重しているのだなあと驚きました。

私の印象に残っていることは、ヴォルフスブルグ在住のご夫妻のご自宅に招いていただき、ドイツの伝統料理クヌーデルをいただいたり、自分達の国について和気藹々と意見交換をしたホームパーティーです。ポーランドからの学生がギターを演奏してくれたりとても暖かい雰囲気の中お互いの国について深く知ることができたし、実際にドイツの家庭で生活している気分を味わえました。ここでは、自分達が学習している言語についても話し合いました。日本は普通、高校で第二外国語は学習しませんが、他の国はラテン語やフランス語、ドイツ語等を学習する、と学生とご夫妻が教えてくださいました。私は英語しか話せなかったのも、他の人たちが少し羨ましかったです。

日本と豊橋に関心を持ってくれた人が多かったのも印象に残っています。私はお土産としてブラックサンダーを渡したのですが、「私日本のお菓子好きだよー」などと言ってくれた人が多かったですし、「私たちの国はこうだけど、日本は？」とか「日本で私たちの国のことは学ぶの？」などと聞いてくれた人も多く、他国に関心を寄せる度合いが高いなと思いました。少しでも興味を持ってきて嬉しかった一方で、自分があまり知らない話題について聞かれることもあり、返答に困ってしまったので、自分達の周りのことも学習していかないなと思いました。



栄養スコア